次への一歩 対話

北信教育事務所だより

令和８年10月６日発行　Vol.４

（イラストは生成AIにて作成）

『気になるな』、『やってみようかな』が次への一歩。子どもたち一人ひとりの学びと成長を支える学校づくりや研修についてご紹介します。

「やりたい！」「知りたい！」をトコトン追究する『じぶんラボ』

～サキドリ研究校・野沢温泉小学校の取組より～

「柔軟な教育課程の編成」を考える際、大事にしたいのが「何のために編成するのか」です。今年度、サキドリ研究校の野沢温泉小学校では、「学びを楽しむ子ども」の姿に向け、『じぶんラボ』（子どもが個別に好きなことに取り組む時間）を毎週40分間設けています。

出発点は子どもの姿



（校長：雪入先生）
学校が子どもにとって「行きたい場所」になるためには、自分の「やりたいこと」に夢中になれる時間が必要なのではないでしょうか。



「糸通しして」「いいよ」
やりとりから生まれる笑顔

子どもの姿に取組の良さを見出す

１、２年生は遊びながら楽しんでいるようにも思います。「遊ぶこと」と「学ぶこと」は、グラデーションのようなものだと思います。
（２年担任：飯川先生）





「お父さんと大物を釣る」
目標に向かう精緻なルアー作り



「怖いけどやってみる」
挑戦を見守る友と先生

子どもの学びの姿や設定する課題について教師が問い続け、話し合うことに意味がある

「じぶんラボ」について、先生方の考えがそれぞれにあって、意識の共有には時間がかかるかもしれませんが、先生方で話し合うことそのものが大事だと思います。　（研究主任：勝山先生）



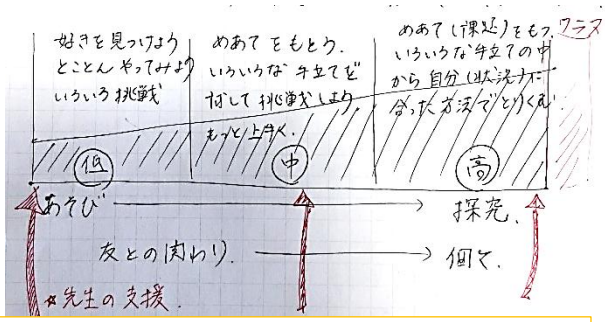
教師の支援は子どもの声を聞くことから

「じぶんラボ」は、教師の声がけが難しいと思います。まずは「どんなことやってるの」から入り、その先を子どもが自分で考えるよう、繰り返し促しています。
（６年担任：金近先生）





「友達はジャンプが得意で、僕は漢字名人。」
やりたいことに向かう中で見える互いの得意



先生方の話し合いから生まれた、「あそび」から「探究」のグラデーションが表れている研究メモ

教育課程の編成は、自校の「目指す子ども像」の具現に向け、ちょっとした工夫から始まります。
先生方の学校では、どんなことができそうでしょうか。

一人ひとりの“学びたい”を叶える
小・中学校教育課程研究協議会

次への一歩 対話

令和8年度の教育課程研究協議会は、これまで実施してきた内容を大幅に見直し、以下2つの研修を行うことになりました。

内容（1）学習指導要領「総則」に基づく教育課程の編成や学校改革に係る研修
→郡市における研修　対象：各学校の校長先生・キーパーソンとなる先生

内容（2）学習指導要領の趣旨を校内等において共に考え合う研修
→学校における研修　対象：職員全員（中学校区、近隣の学校等の合同開催も可）

今回は内容（1）の研修の様子の一部を紹介します。



指導主事

本日は、多様性を包摂する、インクルーシブな教育の考え方を踏まえて、各校の教育課程の編成と学校改革の方向性について、
Ⅰ　子どもを真ん中にした学校を共につくる
Ⅱ　子どもと共に創る授業　ー授業観の転換へー
この2つを軸に、「何のために教育課程を編成するのか」「目指す子どもの姿」「目の前の子どもの実態に合わせて工夫できること」等について、一緒に考えていきましょう。　（研修内容はPlantから視聴することができます）

質疑応答

授業時間を5分短縮する例がありましたが、ゆっくり学びたい子どもには合わないのではないでしょうか？



A先生
（研究主任）



子どもがじっくり学べるように、授業を2コマ連続にするという日課の工夫をした学校もあります。
子どもの実態を起点にして、短縮だけではなく様々な角度から検討していただくことが大切になります。

「子どもと共に創る授業」として、各教科ではどのような授業をすれば良いのでしょうか？



B先生
（研究主任）



例えば、子ども自身が問いを見出したり、学び方を選択したりするなど、探究的な学習の過程を大切にすることが考えられます。



各学校で行う内容（2）の研修では、目の前の子どもの姿を出発点に、一人ひとりの“学びたい”を叶える学校づくりに向けて、考えてみましょう！

次期学習指導要領の改訂に向け、各学校や地域が抱く、「こんな子どもを育てたい」という思いを、教育課程から形にできる「調整授業時間数制度」が検討されています。先行実施をしたい場合には、「令和9年度教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」の申請ができます。詳細は文部科学省通知、長野県教育委員会通知をご参照ください。

事例紹介：文科省授業づくりnote→ サポートマガジン『サキドリ』

次への一歩 対話

協働による支援でどの子にも「居場所、生きがい、存在感」のある学校づくり

北信教育事務所では、いじめ・不登校地域支援チームを設置し、学校・家庭・関係機関による地域支援体制をサポートしています。

・不登校状況は、子ども個人の問題ではなく、学校文化、大人のまなざし、権利保障、学校組織、地域社会といった複数の構造が背景に絡み合っています。
・SSWは、福祉に関する専門的な助言や、本人を取り巻く環境も含めて問題解決への糸口を探り、医療機関をはじめ各種専門機関等と連携して対応します。
・学校から状況を聞かせていただき、ニーズに応じて家庭に関わるための適切な方法などを一緒にアセスメントし対応していきます。
・令和8年度1学期はおよそ200ケースの対応をしました。学校の相談先の一つとして「いじめ・不登校地域支援チーム」に電話でお気軽にご相談ください。（026-234-9551 学びの共創課）

不登校を原因探しで終わらせない～つながりの再構築を目指して～

いじめ・不登校 地域支援チーム

- 生徒指導専門指導員（主任指導主事）
- いじめ・不登校相談員 不登校支援機関連携推進員
- 学びの共創課長 チームリーダー（全体統括）
- スクールソーシャルワーカー SSW
- 特別支援教育推進員 指導主事

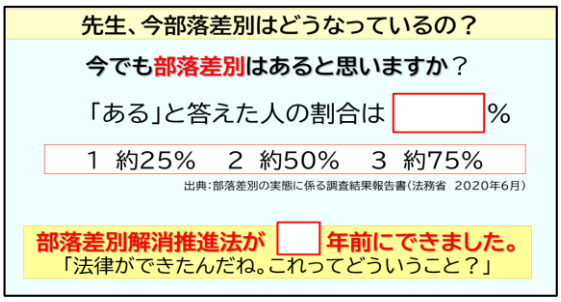
いじめ・不登校地域支援チームの活動として、「キラッ☆と笑顔 わくわく講座」を実施しています。校内教育支援センター等を訪問し、子どもが**仲間と活動する楽しさやじっくりと活動するよさを感じられるよう**、指導主事が一緒に活動します。

日程等の詳細は二次元コードから



次への一歩 対話

～ オンデマンドでいつでも学び直せる「同和問題ミニ講座」のご案内 ～



第3回【実践編】追究の手がかりになる授業実践（小学校）より

「どう指導したらよいか分からない」「間違えて教えてしまったらどうしよう」「こまれで同和問題をくわしく学んでいない」と同和問題の指導に不安を抱えている方はいませんか？

そんな不安のある方に、長野県教育委員会が配信している「同和問題ミニ講座」をお薦めします。

- ◆「同和問題ミニ講座」は、どなたでも、いつでも学び直すことができる約20分間のオンデマンド学習シリーズです。
- ◆ 確かな知識と実践例を学び、自信をもって子どもたちの前に立つための具体的なアプローチや授業づくりのポイントが分かりやすく解説されています。
- ◆ 個人での学び直しはもちろん、職員研修の教材としても活用できます。

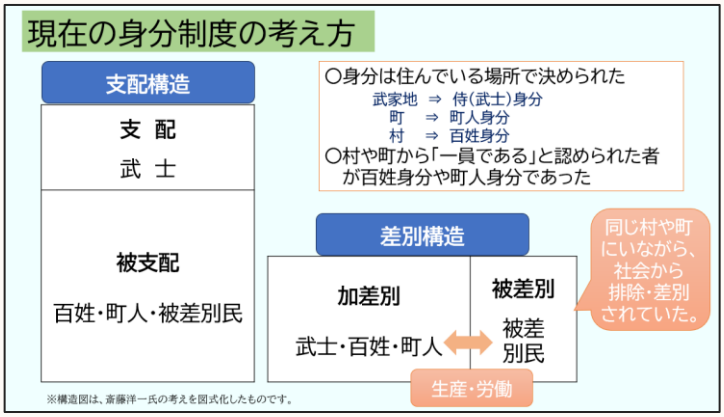
第１回【実践編】	オリエンテーション ～部落問題とは～	第７回【実践編】	部落問題に立ち向かっている方のお話 ～皆さんへのメッセージ～
第２回【実践編】	「寝た子を起こすな」ではダメ！？ リニューアル！	第８回【知識編】	部落差別の起こりと人々のくらし リニューアル！
第３回【実践編】	追究の手がかりになる授業実践（小学校） ～地域教材を生かして～	第９回【知識編】	全国水平社創立と長野における運動のあゆみ ～小山薫と高橋くら子が追い求めたもの～ リニューアル！
第４回【実践編】	追究の手がかりになる授業実践（中学校） リニューアル！	第10回【知識編】	すべての子どもに学ぶ権利を ～教科書無償化運動～ NEW
第５回【実践編】	部落の子どもと関わり続けた教師の証言 リニューアル！	第11回【知識編】	部落差別の現状と課題
第６回【実践編】	自ら動き出した先生方の実践	【追加講座】	人権教育をすすめるために ～授業づくりの基本～ NEW

■ お薦めの講座を紹介！　第8回「部落差別の起こりと人々のくらし」

～差別が当たり前とされた時代に、尊厳を守り抜き、力強く生きた人々～

「差別は江戸時代に政治的につくられた」という従来の固定的な理解を、最新の研究をもとに見直します。

また、厳しい差別や排除の中にあっても、皮革加工をはじめ、警備や医薬など、社会を支える重要な役割を誇りをもって担っていた人々の姿。理不尽な衣服制限令などに対し、人間としての尊厳を守り差別の撤廃を求めて行動した人々の姿について解説します。



第8回【知識編】部落差別の起こりと人々のくらし より

【同和問題ミニ講座 受講のご案内】

この期間、いつでも、何回でも視聴できます！

配信期間：令和8年7月中旬 ～ 令和9年1月29日(金)

受講方法：右記の二次元コードからGoogleフォームへアクセスしお申込みください。

お問合せ：長野県教育委員会事務局 心の支援課（人権教育担当） TEL: 026-235-7450

【受講申込用】